

## 「知事とのフレッシュトーク」(令和3年11月4日(木) 青森県立青森西高等学校) 概要

知事が高校生の皆さんとこれからの青森県や自分たちの将来に関して意見交換を行う「知事とのフレッシュトーク」について、青森県立青森西高等学校での実施概要をお知らせします。

動画による学校紹介の後、代表生徒と知事が意見交換を行いました。

(参加：2学年生徒238名)



### (発言生徒1、2年女子)



私の将来の夢は、臨床工学技士となり、最前線に立って患者を助けることです。そのために医用工学について調べたり、様々な医療のフェアに参加したりして知識を深めています。

青森県の医用工学について質問があります。1つ目です。調べていく中で、青森県が独自に医用工学の研究や開発をしている企業などに助成金を出していることを知りました。助成金を出している企業の業種や、満たさなければならない基準、助成金を出したことで得られた成果があったら教えてください。

2つ目です。今、コロナ禍の影響でECMOなどの人工生命維持装置の必要が高まっています。そして青森県では高齢化が進んでいき、医用工学の需要が増々増加すると考えています。そこで青森県では、今後、医用工学の技術をどのように高めていき、医療現場に取り入れていこうとお考えですか。是非よろしくをお願いします。

### (知事)

今の時代に我々がやらなければいけないことについて、よく気が付いて聞いてくれたと思っています。今、ECMOの話が出ましたが、ECMOの練習のための人工皮膚も県内で開発するなど、結構いろいろな医療機器を作っています。血管に脂が溜まった場合でも、カテーテルの最新型のもので取ったり、ステントを入れたり、すごく医療機器の分野が進んでいて、それを一緒に開発してくれたり、使ってくれたりする人が必要になっていきます。がんの治療では、ガンマーナイフなど、新しいものを、どんどん取り入れています。県民の命をいかに守っていくかを考えていますので、そういう分野について一生懸命取り組んでいきたいと思っています。



このほか、健康づくりの取組もやっています。命を守っていくための大切な仲間として、将来の夢である臨床工学技士は、大変大事です。

### **(新産業創造課)**

商工労働部では、臨床工学技士や看護師が使いやすい道具と一緒に開発することを応援しています。技士の方々と道具と一緒に開発することが重要だと思っていて、技士の方々向けの研修会と一緒にやっています。その上で、県が県内企業を集めてきて、課題や改良点などを発表してもらいます。その後、県がフォローして、いろんな機関や研究所と一緒に商品開発をしています。

お話しのあった補助金ですが、100万円、2分の1上限で商品開発の試作に係る部分について補助しています。補助要件としては、どんな課題でも県内企業でやっていただく分には全部対象とするのが県の方針です。

ECMOに関しては、コロナの治療にも使われていて、エコーを使いながら大きな注射器を刺します。このための練習として、皮膚モデルがありますが、人間の皮膚と同じように見えないと練習にならないということで、今まで日本には高いものしかありませんでしたが、県内の平川市の企業と一緒に開発しました。

他にも、看護師の方が夜間時に使用するライトについて、明るすぎると血色が分かり難いという意見から、人肌に近く見えるライトを県内企業と開発しました。

それ以外にも、八戸市民病院の臨床工学技士の方が、ペースメーカーについてドイツ語表記しかなく、表示が見づらいということで、日本語表記できるものを八戸市内の企業と一緒に開発したり、膨大な数の鉗子やメスを管理するシステムを開発したりしています。今後もどんな課題でもいいので一緒にやっていければいいと思っています。

### **(県立中央病院)**

臨床工学技士は、医師の指示の下に生命維持管理装置の操作及び保守点検を行う仕事をしています。医療機関では、主に臨床業務と医療機器管理業務があります。臨床業務としては、人工心肺装置、それから人工透析・人工呼吸器・ペースメーカーなどの機械を操作したりします。医療機器管理業務としましては、院内で使用する医療機器の点検、保守であったり、多少の故障に関しては自分たちで直したりします。

その他に、病院での仕事以外には、災害時に訓練を受けたスタッフがDMATの一員として被災地に向かって活動します。臨床工学技士も厚生労働省の訓練を受けることでDMATの一員として活動します。

臨床工学技士になるためには、まず高校を卒業する必要があります。その後、臨床工学技士養成課程のある大学や短大、専門学校、を卒業することで国家試験の受験資格を得られ、国家試験を受けて、合格すると免許が取得できます。

免許取得後は、医療機器メーカーに就職した場合は、営業や研究開発アドバイザーとして病院に派遣されることもあります。医療機関に就職した場合は、患者さんに対して治療などに携わることになります。そのほか、数は少ないですが、大学院に進む方もいて、この場合は卒業後、研究機関や教育機関に就職することが多いです。

県内には学校がないので、必ず県外に出る必要があります。ほとんどが首都圏に集中しています。そのため、首都圏での生活がよくて帰ってくる方が少ないのが現状です。県内の臨床工学技士が現在約230名、全国でも免許発行数で約47,000名ですので、是非、免許取得後は青森県に戻ってきていた

だきたいと思います。

### (知事)



開発については結構やっています。資格を取ったあとは、できれば青森県に帰ってきてもらえたらうれしいです。

青森県ではライフイノベーション戦略ということをして、随分長いことやっています。青森県は短命県ですが、短命県を返上するために新しい医療機器の開発やだし活など、いろんな取組を行っています。

未来を担う皆さんには、現状がマイナスだからダメだと思わず、そういう厳しく辛い中にあっても、厳しい状況を改善するために産業化していかうと考えるなど、前向きに捉えていくことがすごく大事だと言いたいです。

### (発言生徒2、2年女子)

私の将来の夢は看護師になることです。患者を身体的にも精神的にも元気づけられるような看護師になれるよう、日々勉強に励んでいます。

青森県の平均寿命について調べたところ、男女ともに全国最下位で、特に40代から50代の働き盛りと呼ばれる世代ががんで死亡しているケースが多いことが分かりました。

そこで青森県が短命県を返上するために2つの案を考えました。1つ目は、「できるだし」のような商品の開発を今以上に推進することです。「できるだし」はだしのうま味で減塩を目指す取組、「だし活」事業の一環で作られた商品で、青森県産の農産物や海産物がふんだんに使われています。「できるだし」のように、調味料として手軽に使うことができるので、県民の塩分摂取量が減少し、働き盛りの死亡率が低下すると思います。

2つ目は青森県内で取れた農作物の直売所を増やすことです。直売所や道の駅で売っているような野菜は新鮮で素材本来のうま味があり、調味料をかけなくてもおいしく食べられるので、減塩効果が期待できると思います。また県産の農作物を直売所で売ると地産地消にもなり、青森県の経済的なメリットにもつながるのではないのでしょうか。知事のご意見をお聞かせください。



### (知事)

どちらも大賛成です。最近では、直売所などで売る野菜も増えてきています。「だし活」については、スーパーでPRするなどしています。

### (がん・生活習慣病対策課)

お話しにもあったとおり青森県の平均寿命は全国最下位が長く続いています。男性は昭和50年から、女性は平成7年から全国最下位です。また、どういう病気で亡くなるのかというと、がんで亡くなる方が全体の3割、それから心臓の病気、頭の血管が詰まったり破れたりするような脳血管疾患、この3つの病気で亡くなる方が半数以上を占めています。三大生活習慣病と言われております。その

中で40代から50代の死亡が全国でも非常に多く1.4倍となっています。

そこで県では働き盛りの方の健康づくりを支援するために、従業員の健康づくりに取り組む会社を健康経営事業所と認定しています。その事業所では、職員のために運動施設の利用券を提供したり、社員の食堂やお弁当に健康食品を利用した食事を提供したりといった取組をしています。このような取組から、野菜の摂取量が増加するなど生活習慣の改善もみられてきていますが、まだあと野菜50g程足りないという状況になっています。また、運動については、目標には足りませんが、まず1,000歩から増やしてみようということで、お話ししています。

皆さんが、今日、野菜をどのくらい食べたか、お弁当に野菜がどれくらい入っていたか、新青森駅からここまで歩くと何歩あるかなど、日々の生活や活動の中で考えてもらえたらうれしいと思います。また、参加している皆さん一人ひとりが自分自身の健康というものを今一度考えていただければと思います。

### **(総合販売戦略課)**

県では、県内にたくさんあるだしの素材に注目して、だしの力でおいしく減塩する「だし活」の取組を進めてきました。令和元年度からは、「だし活」に加えて県産の野菜をたくさん食べて、野菜に含まれるカリウムという成分の力で体内から塩分を外に出す「だす活」も合わせてPRしています。こうした「だし活+だす活」の取組を実践する県民の増加を目指してスーパーなどでPR活動をしています。

また、県民がもっと気軽に「だし活」が実践できるように、様々な商品が販売されています。その中で、できるだしシリーズはより多くの県民に手に取っていただけるように、パッケージの見直しを行っています。皆さんも「だし活+だす活」に取り組んでみてください。

次にお話しにもありましたが、産地直売施設は、地元の農家が栽培した新鮮で良質な農産物を買うことができる地産地消の重要な拠点です。県内には165施設あります。昨年度はコロナ禍において観光客が来なくなったので、飲食の売上や土産品の販売は少なくなりましたが、地元の農家が作った農産物や加工品の販売は今までどおり順調に販売されています。

県では、これからも産地直売施設が活性化するように、若手の農家がたくさん農産物を出荷できるように研修会を行うほか、高齢の方も出荷できるように、バスなど公共交通機関を使った出荷の仕組みづくりを進めていくこととしています。

また、多くの方に地元の農産物を買ってもらえるように、スーパーの中にインショップとして、農家の方が直接売るコーナーを設けていますので、そちらも、お店に行ったらみてください。

### **(医療薬務課)**

保健師、助産師、看護師、こういった医療職員になるためには高校を卒業したあとに、看護師等を養成する過程がある大学・短期大学、それから看護師養成所等に進んで、知識や技術を学んでいただいて、そのあとに国家試験に合格してもらう必要があります。

働く場所としては、県内では主に病院とか診療所、こういった医療機関が多いですが、その他には、訪問看護ステーションや介護老人保健施設など、様々な場所があります。

青森県では、看護師を目指す学生や働き始めたあとに助産師になりたい方、認定看護師といった技術やスキルを学んで新しい資格を取りたいという方のための修学資金の貸付や様々な補助金などの支援制度も用意していますので、皆さんが将来の夢が叶った際は、青森県で働いて活躍してくれることを期待しています。

### (知事)

「だし活+だす活」について、実際どういう活動をしているか、今日は見せたいと思います。

#### <だし活ダンス披露>

### (知事)



お話しにあったとおり、野菜はもう少し食べてほしいところです。1日あと50g足りませんが、意外と簡単です。例えば、ミニトマトだと5個、玉ねぎだと4分の1、ピーマンだと3個という感じです。この中だと一番簡単なのは、青森県奨励品種のミニトマトです。こういった活動をしてきたおかげもあり、野菜を前より50g多く食べる方が増えました。皆さんも可能な限り野菜を食べほしいです。

また、アフターコロナ、ウィズコロナで問題になってきているのがフレイルです。直訳すると虚弱という意味ですが、最近、運動をしなかったら体重が減った、疲れやすくなった、握力がなくなってペットボトルの蓋を開けられなくなったといったことがこれにあたります。

今、これに関する対策もやっています。新型コロナウイルス感染症の影響でこの2年間でものすごく高齢者が認知症になったり、動けなくなったりしています。元気で歩ける、動けることが大切です。

ということで、フレイルについては大きな問題になりつつあります。皆さんはまだ若いので大丈夫ですが、皆さんのおじいちゃんやおばあちゃんが家で動けなくなったり、認知症になったりすると大変ですので、ケアしていくことが必要です。このために考えられたのが、スズキ式フレイル予防体操です。1分40秒で、休んでいる筋肉を動かすという体操を作りました。それでは披露します。

#### <スズキ式フレイル予防体操>

### (発言生徒3、2年女子)

私の将来の夢は保健師の資格を取得し、青森県職員になることです。

青森県の保健師として青森県の健康課題や医療課題に向き合っていきたいと思っています。

私は保健師の資格を取得するために、青森県内の大学に進学しようと考えております。そのため電車を含め、徒歩、車での通学を考えています。しかし、青森県は雪国であるため、冬は電車の運休や、除雪が間に合わないなどの不安があります。その不安を取り除くためには、除雪や排雪の問題を解決しなければならないと思います。

青森県のホームページを拝見したところ、新規除雪区間を増やしたり、路面凍結防止策などの多くの方策を発表したりしていることが分かりました。また、通学路をメインに除雪し、その次に歩道を除雪していることも知りました。しかし、除雪や排雪は追いついていない部分もあります。



そのため自分たちでできそうな部分は地域住民たちでボランティアとして行う方が各地域で差が出にくくなると思います。ボランティアだけではなく、イベントとして活用することもいいと思います。

また、「雪道安全マップ」を作成して、県内の道の駅や観光案内所に配布していると聞きました。お店だけではなく、県内に住んでいる住民にも配るのはどうでしょうか。降雪量が多くて大変だと思う方もいらっしゃるかもしれませんが、これも青森県ならではの特色です。危険なところを県民に知らせ、除雪イベントなどを開くことで、楽しく、安全に除雪を行うことができると思います。

また、もう少しで冬になりますが、今年の冬に向けて現在話し合われている除雪・排雪計画もお知らせください。よろしくお願いします。

### **(知事)**

ありがとうございます。非常に大切なことで、特に人口 30 万人以上で世界のどこよりも雪が降る青森の人だからこそ、そういうことに気がついてくれたと思います。

雪については、青森空港のホワイトインパルスで観光を考えたり、台湾の人に来てもらって体験してもらったりと、活用することを考えてきました。

しかし、実際に暮らしている私たちにとって除排雪は大切だと思っています。

### **(道路課)**

青森県は春夏秋冬がはっきりしているという魅力がある中で、厳しい冬や大雨による災害など、自然の力に打ち勝つというのはなかなか難しいことではありますけれど、インフラの力を利用して、自然の力と共存していくことがこれから大切になっていくと思います。

提案のあった雪に関する取組として、青森県の除排雪事業について、キーワードを出しながら分かりやすいようにお伝えしていきます。

まず1つ目のキーワードが、「約 3,000km」です。これは何の数字が分かりますでしょうか。

これは県内で除雪を必要としている道路の延長になります。この地図の赤い線がそれです。除雪の対象路線になっています。この 3,000km について、11 月から3月の5か月間で、約 540 台の除雪機械で作業をしています。除排雪時間を合計しますと約 6 万時間にもなります。

3,000km と言われても、イメージし難いと思いますので、これを高速道路で例えると、青森インターチェンジから広島インターチェンジ間が約 1,500km あるので、この間を毎日往復しているとイメージすれば、いかに長い距離かが分かると思います。

次のキーワードは「世界で○番の…」ということで、これは何のランキングが分かりますか。

### **(知事)**

何だと思えますか。

### **(発言生徒 3)**

積雪量です。

### **(道路課)**

はい、世界で積雪量が多い都市、トップ 10 のランキングで上位を日本の都市が占めています。1 位は青森市で2位の札幌市よりも 1.6 倍も雪が降っています。その世界一雪が降る都市を有する青

森県の1シーズン、約5か月間の除排雪量はどのくらいなのかと言いますと、約7,500万㎡となります。これは東京ドームでいうと約60杯分になります。今、皆さんがいるこの体育館だと約4,200杯分、1日当たりになると約28杯分も雪を片付けていることとなります。

次にキーワードは、「協働（きめ細かく、丁寧に）」でボランティアについても含まれています。具体例としては、歩道など、大型の機械ではなかなか除雪作業が難しい箇所について、県から小型の除雪機を町内会などに貸出して除雪をしていただくという取組をしています。こういった取組も歩行者の安全確保に大変役立っています。このような地域住民の方々の御協力は雪を克服する上で大変重要なものになっています。

次に最後のキーワードです。「より伝わる情報へ！」です。青森県では一般の方々に冬期の情報提供も行っています。皆さんにお配りしている雪道マップは冬期の交通情報や雪道を走行する注意点を、県内だけではなく観光で本県を訪れる方に対してもお知らせしていて、冬期の安全・安心な走行をしていただくためのものです。今年は県のインフラアンバサダーである「りんご娘」バージョンにリニューアルをしています。ぜひ、御家族の方と御覧になって、冬期の安心・安全な運転に活用していただきたいと思っています。

そのほか、県では青森みち情報というサイトで、県内の82箇所に設置しているライブカメラの映像や県内が大雪に見舞われた際には道路の通行止め等の交通規制情報も配信しています。スマートフォンでもアクセス可能ですので、皆さん、「青森みち情報」で検索してみてください。今年度ももうじき冬がやってきますが、みんなで協力をして、昨年度のような大雪にも負けない快適な生活を築いていきましょう。

### **(知事)**

地域の住民の方々が協力をしてくれる体制を組んでいます。青森西高でも、生徒のために新青森駅から学校までを除雪していることに対して、感謝の言葉が来ています。除雪をされている方に改めて、感謝申し上げます。

将来の夢が県の保健師ということですが、県では20年以上、県民一人ひとりの健康づくりの方法から倒れた時の医療、福祉、しっかり面倒を見て確実にケアをしているという保健・医療・福祉包括ケアシステムを保健師の皆さんとずっとやってきています。

保健師はあらゆる分野の医療関係者や救急関係者など、いろいろなところとつながっていて、しかも地域診断といって地域のことを見ていて、地域の疾病状況や食生活など、地域のことを知ってくれています。これまで、市町村の全ての行政保健師と話し合いをして、どうやったら具体的に命を守れるかということとをずっと続けてきました。県の保健師という夢について期待をしています。



### **(発言生徒4、2年女子)**

私は将来、助産師になって地元の青森県で働きたいと思っています。

現在、青森県の人口が大幅に減少しています。その原因に少子化や進学・就職による県外流出があげられています。少子化は青森県だけでなく日本全体の問題です。少子化は経済的、社会的影響や労働力供給の減少が原因とされていますが、育休・産休制度が充実していないことや子育て支援に不足を感じている人がいるということも原因の1つだと考えました。



そこで母に質問してみました。質問の内容は、「育休・産休はどれくらいあったのか」です。母の回答は「子どもができたなら仕事を辞めなくてはならなかった。企業によって違う」ということでした。育休・産休が少ない方や仕事を辞めなければならない方が安心して働くことができる取組をすることが必要だと考えました。

そこで1つ提案があります。それは、現在進行している高齢化を生かして、気軽に預けられるシッターをボランティアで募集するということです。この提案についてご検討をお願いします。

また、人口減少対策として、IターンやJターン、Uターンについて、青森県ではどのように取り組んでいるのか調べてみました。その結果、東京都から青森県に移住・就職すると最大100万円を支給するという記事を見つけましたが、具体的にどう呼びかけているのかお聞かせください。よろしくをお願いします。

### (知事)

ありがとう。私たちも、出会いから結婚、妊娠、出産、子育てと、全てをケアしていくことを計画的に進めてきました。分野によっては、改善しているものもあります。また、UIJターンについてはすごく力を入れてやっています。

### (こどもみらい課)

青森県で生まれてくる子どもの数は、今から45年ほど前、昭和50年には県内で約24,000人が生まれていました。しかし、その数は年々減少して、令和2年、昨年では約3割となる6,800人になり、これまでで一番少ない出生数となっています。

このような中、安心して子どもを産み、育てていくためには、仕事も大切、家庭も大切、仕事と家庭の両立ということで、ワーク・ライフ・バランスの取組が必要とされています。

結婚・出産・子育てを通した女性の働き方について、令和3年3月に行った意識調査があり、県内在住の満20歳以上の女性に理想だと思う女性の働き方について質問をしたところ、4割以上の方がずっと仕事を続けていきたいと答えています。また、子育てが終わった後に、パートタイム、フルタイムを含めて、仕事に復帰したいと答えた人を含めると、全体の8割を超えています。

そこで県では、県民の皆さんが安心して結婚・妊娠・出産・子育てに関わることができるように、誰もが働きやすい環境づくりを推進し、全ての働く方たちの子育ての希望の実現を目指すため、働き方改革に取り組む企業を「あおり働き方改革推進企業」として認証し、支援する取組を行っています。

推進企業として認証された企業は、あおり働き方改革の「認証マーク」を企業のPRなどに活用できるほか、銀行などの金融機関から融資を受けたり、県で行う様々な入札の時に加点をもらえるなど、いくつかの優遇措置を受けることができる制度になっています。

今回、御提案のあった高齢者のボランティアを活用したシッターに関することについては、現在、青森県内の6つの市でファミリー・サポート・センターを設置していて、子どもを預けたい方と預かりたい方のマッチングを行っています。保護者が病気や外出、急な用事、冠婚葬祭等の際に子どもを預けたり、送迎を行う子育て援助活動支援事業を行っています。

なお、いわゆるベビーシッターについては、子どもに直接関わる仕事であり、事故等が起きた場合



の賠償責任の問題もあることから、原則として県へ届出を行う必要があります。また、その提供にあたっては、ボランティアではなく、有償でサービスを提供するという取組になっています。

今回の御提案は素晴らしいことだと思いますので、県としても子育て経験が豊富で時間に余裕のある高齢者の方々にも参加いただいて、今後、地域ぐるみで子育て支援を進める取組に活かしていきたいと考えています。

### (知事)

女性がすごく流出しているので、女性が元気でいて、また、帰って来てくれないと困ります。そういったことから、様々な施策を進めています。

青森県は驚くことなかれ、女性の社長や管理職が多いです。また、創業・起業をする人たちの4割が女性です。そのほか、女性が仲間を募るということも盛んにしています。

子育て環境の取組も一生懸命進めてきました。待機児童数は0で全国1位です。認定こども園の認可・認定件数も全国1位です。学童保育の充実度は全国11位です。

また、育児をしている女性の有業率は9位で、育児が必要になってもちゃんと仕組みができていて、働ける状況になってきました。そのほか、赤ちゃんができるまでの支援もよくなっています。このように、女性にも青森県を選んでもらえるよう頑張っています。



### (労政・能力開発課)

お話しにあった記事は、移住支援金制度というものです。これは県や市町村、国が連携して、東京23区内に一定期間住んでいた方が、あるいは通勤をしていた方が本県に移住した場合に最大100万円を支給するという制度です。この制度を少しでも多くの方に利用していただくために、県では、東京に窓口を設置して情報提供を行っています。また、東京都内などで移住のイベントがある際にPRを行っています。

この他にも、県ではUIJターン就職の促進に向けて様々な取組を行っています。例えばオンラインで企業説明会を開催したり、スマホの就活アプリを開発したり、公式の就職情報サイトを運用しています。また今年度は20代から30代の県出身者に、是非戻ってきてもらいたいということで、本県で暮らすことや働くことをアピールする冊子を作成して、県産品と一緒にプレゼントをするというキャンペーンもやっていくこととしています。

県では、青森に戻ってきたい、青森で働きたいという方を応援していますので、是非身近にそういう方がいらっしゃったらPRに御協力をお願いします。

### (知事)

UIJターンについては、新型コロナウイルス感染症の影響でできなかった取組もあります。感染も落ち着いてきたので、希望する方々に集まってもらって、家をどうするかも含めて仕事のマッチングをするなど、小まめにやっていきたいです。

将来の夢が助産師ですが、県立保健大学などに進学して、看護師資格から順次につけていくことになると思います。そのためには理系が全般的に必要ですが大丈夫ですか。

**(発言生徒4)**

理系はちょっと苦手です。

**(知事)**

勉強を頑張ってください。期待しています。

**(司会)**

それでは今回の意見交換を通して、知事から感想をお願いいたします。

**(知事)**

感想ですが、まずは、ありがとうという思いです。青森県の命と暮らしについて考えてくれていて、雪の課題もありましたが、生活面でどういうことが今、大事かなということについて話をしてくれました。我々も、今日いただいた意見をしっかりと生かしていきたいと思っています。

何よりも、今日、皆さんが青森県内で将来も青森県の人たちと一緒に仕事をして暮らしていきたいと言ってもらえたことがすごくうれしかったです。県の仕事っていろいろなことをやっていますが、未来ある皆さんに選んでもらえる、あるいは、どこに行ってもいいので、青森のことを思ってくれて応援してくれたらすごくうれしいなと思っています。青森のことを本気で考え、かつ自分が将来、青森を良くするというを言っていただけなことについて、今日は、本当にありがとうございました。

